



種蔵棚田、景観後世に

獣害柵設置や雪囲い撤去

住民団体

県の「ぎふの棚田21選」の一つ、飛騨市宮川町の種蔵棚田で6日、地域住民らが獣害柵の設置や土蔵の雪囲いの撤去を行った。

……
獣害柵の設置に汗を流す参加者ら＝飛騨市宮川町、種蔵棚田

住民グループ「種蔵を守り育む会」をはじめ、持続可能な開発目標(SDGs)の一環で支援する県信用農業協同組合連合会(JA岐阜信連)などから10人が参加。棚田の周囲400メートルを囲う獣害柵を建てた。棚田

ではソバやミョウガを栽培するという。土蔵の周囲の雪囲いも取り払った。

JA岐阜信連は2022年から県内の棚田の保全に参加。地元由市町村には「企業版ふるさと納税」を活用し、金銭面で支援している。総合管理部部长代理、和田幸宏さん(51)は「このきれいな景観を後世に残せるよう、少しでも力になりたい」と話した。(三輪真大)